

# 農林大学校花きコースの取り組み

和歌山県農林大学校農学部園芸学科 花きコース長 神谷 桂

本校では校内学習だけではなく、学生が広く知識を得るために校外研修も充実させています。

1 年生は県試験研究機関を知る等を試験場見学研修、本校卒業の先輩農家で学ぶ農家体験研修、試験場で試験研究や農作業を手伝いながら学ぶ試験場研修等があります。2 年生はインターンシップ研修、大阪の市場で学ぶ市場流通研修を実施します。また、学生が合同で冬期に果樹、野菜、花きのコース別に分かれて県内先進農家での見学研修を実施しています。

今回は、花きコースで行った校外研修について紹介します。

まずインターンシップ研修です。前期、後期併せて約 1 ヶ月間と長期であり、校外研修のなかでも重要な研修となっています。以前は農家留学研修ということで地域のリーダー的存在の農家に泊まり込み、



農家でのインターンシップ研修

寝食を共にすることにより技術だけでなく、農家生活や農業に対する考え方を学ぶ場としていました。最近の学生の卒業後の進路が食品加工等の農業関連企業も多くなってきました。そのため職場体験という意味合いも加えてインターンシップ研修と名を変え、J A 大型直売所や農業法人等へと研修先を広げました。就農や J A への就職希望者は今でも農家宿泊研修をしています。その研修で身につけた省力的で効率的な栽培方法等を学生が農大や、また卒業後の自家農業に積極的に導入しています。また、研修先農家とは卒業後も付き合いを続けて、困った時には良き相談相手になってもらっているという話をよく聞きます。

今年度の 2 年生のインターンシップ研修は前期 6 月 10 日から 15 日間、後期は 10 月 14 日からとなります。研修後の学生の成長した姿を見るのが楽しみです。

次に市場流通研修です。県農業協同組合連合会の協力により、平成 19 年から実施しています。栽培技術だけではなく、流通についても学生に学ぶ機会を与えることを目的とし、果樹コースは「大阪中央青果株式会社」、野菜コースは「大果大阪青果株式会社」、花きコースは「株式会社なにわ花いちば」にそれぞれ分かれて研修を受けます。

昨年は 7 月 9 日から 5 日間実施しました。初日はセリの見学、仲卸会社等の場内

見学やその後の講義により市場の機能や商材の流れを勉強します。その後はセリの手伝いが中心となります。配送トラックからの商品の仕分け、セリに掛ける花き段ボール箱の開封やセリ落とされた商品の移動や積み上げの手伝いをしました。また、輸入花材、輸出花材の再調整やアレンジの手伝いもしました。作業の手伝いをする際に社員の方との話の中で現在のトレンド等書籍では分からない現場の話を聞いたのが貴重な経験であったと学生からの感想がありました。

最後に県内先進地見学研修です。花きコースでは隔年で紀北地域、紀南地域と順番で研修をしています。本場の花きの栽培状況や栽培方法の見学、また先進的な農業者の話聞くことで学生は大いに刺激を受けます。昨年度は御坊市と印南町で研修を行いました。

御坊市ではスターチスを見学しました。基本的栽培方法は農大と同じでも、かん水回数や手入れ方法の違い等を学生は知ることができました。また、オリジナル品種の発見から育成までの苦労話も聞きました。また、省力化のための自作の設備や効果的な薬剤散布の方法等の教示も受け



スターチス栽培ほ場の見学



スイートピー栽培ほ場の見学

ました。

印南町ではカスミソウを見学しました。農大での栽培品種以外の性質や摘心方法の違いを知ることができ、農大でもその方法を導入することとしました。

印南町では卒業生を訪問し、スイートピーを見学しました。昨年度、農大ではスイートピーを栽培していなかったのが学生にとっては栽培しているスイートピーを初めて見ることになりました。学生の感想は想像以上に大きく、きれいで、香りも良いとのことで今年度は栽培することとしました。

どの見学先の生産物も素晴らしく、学生は刺激を受け、農大の生産物も少しでも見学先の品質に近づけるよう栽培実習を頑張りたいと意気込んでいました。

今年度は紀北地域での先進農家の研修を予定しており、学生も楽しみにしています。

以上のように農大では各関係機関の協力の下、校外研修を実施し、学生の知識や技術の向上に努めています。